

製品名: ラミニン γ -1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13203**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル、ネコ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	178kDa

抗原情報

遺伝子名	LAMC1
別名	LAMC1; LAMB2; Laminin subunit gamma-1; Laminin B2 chain; Laminin-1 subunit gamma; Laminin-10 subunit gamma; Laminin-11 subunit gamma; Laminin-2 subunit gamma; Laminin-3 subunit gamma; Laminin-4 subunit gamma; Laminin-6 subunit gamma; Lamini
遺伝子 ID	3915.0
SwissProt ID	P11047
免疫原	抗血清はヒト LAMC1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1451-1500

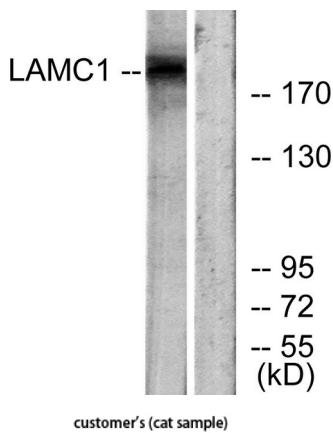
背景

ラミニンは、細胞外マトリックス糖タンパク質ファミリーであり、基底膜の主要な非コラーゲン性構成成分です。細胞接着、分化、遊走、シグナル伝達、神経突起伸展、転移など、様々な生物学的プロセスに関与していることが示唆されています。ラミニンは、ラミニン α 、 β 、 γ (以前はそれぞれラミニン A、B1、B2 と呼ばれていました) という3つの非相同鎖から構成され、それぞれ異なる鎖で構成された3本の短腕と、3本すべての鎖で構成された長腕からなる十字型構造を有しています。各ラミニン鎖は、それぞれ異なる遺伝子によってコードされるマルチドメインタンパク質です。各鎖には複数のアイソフォームが報告されています。異なる α 、 β 、 γ 鎖異性体が結合して、異なるヘテロ三量体ラミニンアイソフォームが生じます。これらのアイソフォームは、発見順にアラビア数字で指定されます。つまり、 $\alpha1\beta1\gamma1$ ヘテロ三量体はラミニン1です。生物学的機能ドメイン：ドメインVIとIVは球状です。ドメイン： α ヘリカルドメインIとIIは、他のラミニン鎖と相互作用してコイルドコイル構造を形成すると考えられています。機能：高親和性受容体を介して細胞に結合したラミニンは、他の細胞外マトリックス成分と相互作用することにより、胚発生中に細胞の接着、移動、組織への組織化を媒介すると考えられています。類似性：ラミニンIVタイプAドメインを1つ含みます。類似性：ラミニンN末端ドメインを1つ含みます。類似性：ラミニンEGF様ドメインを11個含みます。サブユニット：ラミニンは、3つの異なるポリペプチド鎖（アルファ、ベータ、ガンマ）がジスルフィド結合によって互いに結合し、1本の長腕と3本の短腕からなる十字型の分子を形成し、両端に球状構造を持つ。ガンマ1は、ラミニン1（EHSラミニン）、ラミニン2（メロシン）、ラミニン3（Sラミニン）、ラミニン4（Sメロシン）、ラミニン6（Kラミニン）、ラミニン7（KSラミニン）のサブユニットである。組織特異性：基底膜に存在（主成分）。、

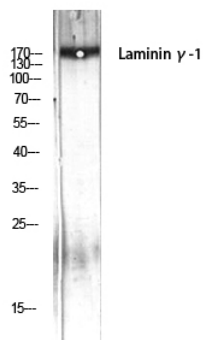
研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、プリオン病、がんの経路、小細胞肺がん。

画像データ



LAMC1抗体を用いたHUVEC細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000に希釈したラミニン γ -1ポリクローナル抗体を用いた顧客（猫サンプル）のウェスタンブロット分析

